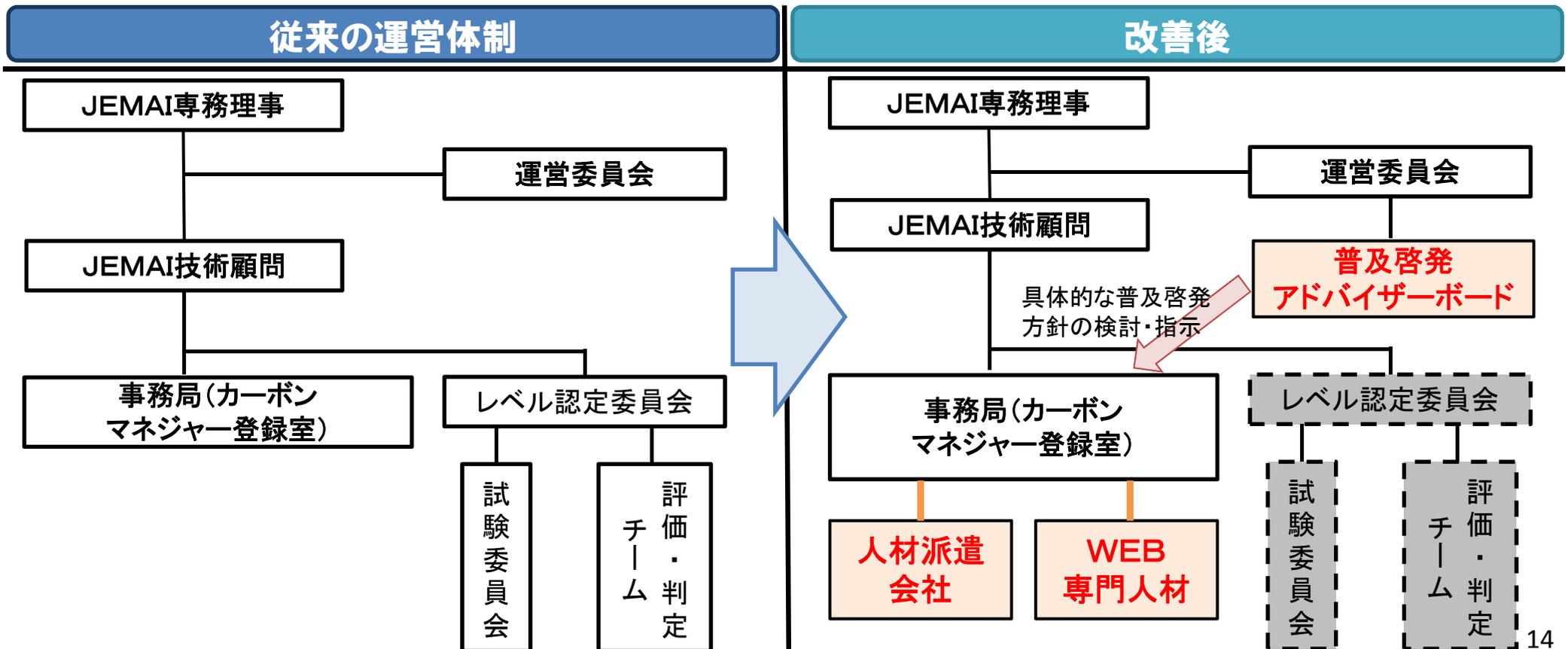


1. 活動の充実

- 既にDM、パンフレット等を配布した団体に直接出向き、制度の活用をお願いするなどプッシュ型広報を行う。
- 業界紙、雑誌などに制度に関する記事の掲載を依頼し、環境に関心のある人材に対し広く露出していく。

2. 体制の変更

- 普及啓発の戦略について、運営委員会の下に専門チームを設け、委員による検討を進める。
 - ※ 試験問題が蓄積されていることから、当面試験委員会は開催しない。また、レベル認定委員会等の開催頻度は低下と想定。
- 制度の広報・営業について、企業の人事部門等とのネットワークが強い人材派遣会社と連携する。
- WEBシステムによる普及啓発を強力に推進するため、外部の専門人材を活用する。



1. カーボンマネジャーの対象分野の拡充

○ 多くの企業における人材育成・キャリア形成と連動させるため、省エネ・温室効果ガス以外の環境関連知識・スキルについても対象として拡大。その際、キャリアの方向性を工場、ビル管理等の部門を軸とすることも含めて検討。

➡ 制度の対象分野を環境エネルギー全般に拡充する。
※その際、「カーボンマネジャー」という名称変更の可能性も検討。

2. 既存の資格との連携

- カーボンマネジャーの対象分野の拡充を踏まえ、また、平成27年度以降の自立化を見据え、eco検定などの企業に浸透している関連資格等と積極的に連携を図る。
- 「できる」に相当する部分を試験で確認できるレベル2までについて優先的に検討を進める。

3. 「わかる」における認定要件の見直し

- 企業にとって、「わかる」で必須となっている研修が、その研修時間、費用の両面において大きな負担。
- 本制度は、知識や資格を有しているだけでなく、実務が「できる」人材に対し、段位認定(ラベリング)を行うことが趣旨であり、「わかる」を過度に重視するものではない。
- 研修を外しても、「わかる」は試験や関連資格の代替により知識レベルを確認することが十分可能。

➡ 「わかる」における研修義務を外し、試験及び関連資格の代替による運用とする。

◆ 以上、1.~3.の改善によるレベル認定者増加の見通し

- ECO検定(年間受験者約3万人)、エネルギー管理士(年間受験者約1万人)などの受験者を本制度に取り込める可能性が広がる。

平成26年度

Phase 1.

- 本日(第13回WG)の議論を踏まえ、制度に反映できる改善については速やかに適用。
※すぐに制度に改善できない部分については、これまでの制度を踏襲して実施。
- 引き続き本事業の実施や、企業ヒアリング等を実施する中で、企業ニーズと合致した環境エネルギー人材の育成・評価の在り方について、詳細の検討を行う。
※特に、試験の在り方について優先的に検討。新たな試験が確立するまでは、既存のものを活用。
- 「わかる」について、関連資格との代替を進めるため、既存資格との整合性の検討を進める。



Phase 2.

- 次回カーボンマネジャーWG(第14回、今夏目途)において、
 - ・目指すべき人材像の在り方(部門、分野等)
 - ・既存の環境エネルギー関連資格との代替・整合性
 - ・レベル1, 2の試験の在り方
 等の検討結果について報告・検討



平成26年度末～平成27年度

平成26年度における上記の検討結果を踏まえ、新たなキャリア段位制度の適用を開始。

